

第3回 播磨町長期総合計画審議会

開催日時	令和2年2月7日（金）午後1時00分～3時10分
開催場所	播磨町役場 第一庁舎3階 BC会議室
出席者	<p>【長期総合計画審議会委員】</p> <p>田端 和彦（兵庫大学・兵庫大学短期大学部 副学長） 佐伯 亮太（国立明石工業高等専門学校 非常勤講師） 高木 利浩（播磨町連合PTA協議会 会長） 草部 芳彦（播磨町社会福祉協議会 副会長） 前田 忠男（播磨町自治会連合会） 尼木 智美（NPO法人スポーツクラブ21 はりま 理事） 藤本 徳子（播磨町連合婦人会 会長） 津村 道彦（公益社団法人加古郡広域シルバー人材センター 事務局長） 松井 佳子（播磨町人権擁護委員） 森田 孝明（播磨町社会教育委員） 田尻 美恵子（播磨町教育委員会教育委員） 井澤 妙子（住民委員） 正願 智教（住民委員） 井上 晴喜（住民委員）</p> <p>【町】</p> <p>清水 ひろ子（町長） 岡本 浩一（理事） 松本 弘毅（企画グループ統括） 野中 照代（企画グループリーダー） 大友 敬（企画グループ主事）</p>
欠席者	正木 隆資（播磨町商工会 副会長）
議題	1. 開会 2. 町長あいさつ 3. 議事 （1）播磨町人口動向と将来見通しについて （2）第5次播磨町総合計画基本構想案について 4. 閉会
資料	資料1 播磨町人口動向と将来見通し 資料2 第5次播磨町総合計画基本構想案 参考資料 第5次播磨町総合計画 基本構想 検討資料

1. 開会

- ・事務局より開会あいさつ

2. あいさつ

【町長】

これから皆様に、今後 10 年間の総合計画をご審議いただくが、グローバル化など社会情勢が刻々と変わっている中で、10 年間という計画を今ある材料の中でご審議いただくことになる。そのため、なかなか見通しや計画を立てにくいように思われるかもしれないが、是非、本日の会議において皆様からの忌憚のないご意見等を頂戴し、実のある会議になるようお願い申し上げます。

【会長】

今年が国勢調査年で、その調査結果によって今後 10 年がどのようになるか注目していかなければならないと考えている。人口減少の傾向は変わらない中で、同じ東播磨地域でも自治体によって人口の流出入状況が異なっており、一つでくくれないこともある。

本日後半のグループワークでは、播磨町の中でも地域別の問題点等が出てくると思うが、それを踏まえて、播磨町の長期ビジョンはどうなのかということを考える必要があると思う。グローバル化の観点の中で、あるいは社会状況の変化の中でそういうことを見通さなくてはいけないと感じている。

・事務局より資料の確認

3. 議事

【会長】

本日の議事録の署名を、佐伯委員と津村委員にお願いしたい。

(1) 播磨町人口動向と将来見通しについて

(資料 1 について事務局から説明)

【委員】

人口予測は他の自治体も出しており、特に高齢者人口は重要な問題であるが、労働人口が減ると町は活性化が図れなくなると思う。税収にも影響すると考える。人工島で働いている人の比率が大きいという意味では、労働人口を抱えていると考えて、また別の見方ができる気がする。

播磨町の人口は、私が 20 年程前に戻ってきてから 3 万 5 千人前後を維持しており、今後も続いていくのではないかと思う。最初に言った労働人口については、播磨町に住民票がある人だけで考えるのか。例えば、人工島の労働者も含めて考えれば、町の活性化を図ることができるのではないか。

【会長】

人口区分については、国勢調査の居住地人口を基準にしている。居住地人口をどのように増やすかということが課題であるわけだが、昨今、交流人口や企業における地域貢献といったところを考えるならば、播磨町の場合は昼間人口密度が高く、その昼間人口をもう少し活用するという方策が考えられるのではないか。事務局でこういった考え方について何かご意見があればお願いしたい。

【町長】

今、人工島に 60 社以上の企業が操業しており、そこに毎日 4,000 人以上の従業員が通勤している。常々企業には、できるだけ本社採用ではなく、現地採用をしていただきたいということは要望している。地方で雇用が生まれることによって、そこに住み続けることが可能になると思っている。

また、町内企業の活性化という意味では、平成 28 年度に人工島の緑地面積率等を 20%から 1% に大きく削減し、臨海部においても緑地面積率等を軽減する予定である。企業からは、新たな設備投資ができるというお声をいただいております、現に、以前緑化していたところに設備投資をして、新たな事業展開をされている。

【会長】

企業住民をどのように地域に巻き込むか。先ほど町長がおっしゃった緑化率の問題は見方が難しい。住民からすると緑が多いほうがいいのではないかという意見もあるかもしれないが、企業からすると経済効率を高めるために、もう少し操業面積を確保したいという意見もある。この辺りを調整するのが町の役割でご苦労されているところだと思う。先ほどの委員のご質問の趣旨は、そういった企業の方々に、もう少し雇用に貢献してほしいというものであるが、企業として町の活性化に寄与するような機会は何か設けているのか。例えば、企業が主催するお祭り等を通して住民との交流を深めていくとか、その他企業同士のマッチングで、従業員が町内で新居を構えてくださいといったことはないか。

【町長】

新島と東新島それぞれの連絡協議会の総会等に出席しているが、企業は、地域貢献や祭り、神事などに常に参加される中で、いわゆる地域の伝統的なものについても関与していただいたり、町との行政懇談会、懇親会等々も行っている。そうしたことから、町は企業のお声もいろいろな事業に反映している。

それともう一点、緑地面積率等を大幅に下げたというのは、人工島が民家とは離れている島であり、あまり住宅地に影響がないであろうと考えたからである。臨海部でも同様に軽減してほしいというお声もあったが、そこは民家が接近しているため、人工島同様の軽減は難しいと考えている。

【会長】

今回、合計特殊出生率を 2040 年に 2.07 までもっていくとしているが、あと 20 年先なので、相当高いハードルではないかと感じる。2040 年までにこの数字にもっていけるという予測をされた理由を聞かせてほしい。

【町長】

13、4 年前に私が就任した当時の合計特殊出生率は、県下最低の数字であった。子どもが増えない中で、町の活性化は望めないということから、子育て施策について、できるだけきめ細かくどの年代にも、どういった状況にあっても利用できるよう、生まれる前からの支援メニューを充実させてきた。その成果で、1.66 まで上がった。合計特殊出生率が 2 を超えることは、かなり厳しいと思っているが、こうした細かい施策をできるだけ積み上げていくということが必要だと思っている。

【会長】

播磨町では 3 万人を維持するということが長期的な見通しになろうかと思う。そのためにも出生率の上昇については、これからも従前の政策を推進していきたいということである。

(2) 第5次播磨町総合計画基本構想案について

(資料2について事務局から説明)

【会長】

基本構想があって、将来像が示され、分野が基本政策として出てきて、それが具体的に施策に記載されるという流れで計画を作ることになる。その方向性が示されたが、今の説明について、ご質問、ご意見はないか。

【委員】

こういう計画を作る時には、9ページにある土地利用構想のゾーニングは必要だと思うが、ゾーン間をどのような形で結ぶのかということが一番気になっている。例えば、大中遺跡周辺に住んでいる方が役場までどのようにして行くかということ、電動車椅子で喜瀬川の土手沿いを通り、播磨町駅のエレベーターと地下通路を利用することで踏切や坂道を通らずに行くことができる。そのような形でゾーン間の移動という視点が欠けているのではないかと思う。ゾーニングした時に、例えば住宅ゾーンからシビックゾーンにどう動くのか。交通事案等があるだろうが、それ以前に徒歩や自転車で容易に移動ができていないと思う。また、駅周辺の立派な施設について情報が共有されていなければ、せっかくゾーニングしたことが町の活性化に結びつかないことが気になった。

【会長】

基本構想、基本計画の中で地区別を作るのであれば、ゾーン間の移動手段はどうなるかということもあるだろう。今の質問について、事務局からお答えいただければと思う。

【事務局】

総合計画の土地利用構想の中で、ゾーニングについては大きなゾーンを設定しているが、都市計画マスタープランという個別計画において、まちづくりのエリアや拠点がどのようになっていくかをもう少し詳しく描いていく。総合計画の中では、このレベルでお示ししたいと考えている。

【委員】

ゾーンの間を結ぶということをどこかに書いていただいた方がわかりやすいと思う。

【会長】

よく使われるのが、ゾーンと軸を使い、この軸に沿って人が移動するというので、先ほどの都市計画マスタープランまたは都市計画の中になるが、おそらく交通計画なども長期総合計画に基づいて動いていくため、具体的な移動等については詳細な計画の中で詰めていくかということになるかと思う。他にご質問、ご意見はないか。

【委員】

基本構想の中で、将来も住み続けたいということがテーマであれば、個人的には、コミュニティの基本は家族であり、地域である。地域の中で一番身近な自治会がどのように育っていくかが、次

の時代へつながっていくのではないかと考える。今も自治会には色々お世話になっているが、行政と協働で何かできないものかと思う。

もう1点は、基本政策の3つ目に教育、文化があるが、生涯学習を含めた地域のレベルを少しずつ上げていかないと、誇れる町にはならないという気がする。

【会長】

自治会への支援を書き込んでいただくことはできないか。それから生涯学習を通して、住民一人一人の向上も重要ではないかというご意見であった。

【委員】

13 ページに「住民や地域団体、事業者などの多様な主体」と、「地域コミュニティの育成・活性化を図り」とあるが、今ある組織は構成する人数も減っており、どんどん先細りしている現状があると認識している。組織の活性化を図るための手法や方法について、もう少し行政が積極的に関わる機会を設けていただかないと、主体というのが名前だけになってしまう気がする。

【会長】

このあたりも、この後グループワークを行う中で、どういうことをすると主体同士が結びつくのか、あるいは活性化するのかなど、具体的な案としてご意見をいただきたい。

まだまだご意見、ご質問があると思うが、これからグループワークをしたいと思う。

・グループワーク

テーマ「これからも播磨町で続いてほしいこと、これからの播磨町で取り組んでほしいこと」

・グループワークの発表

【委員】

基本構想第2章「基本政策」の中に、皆さんが話した内容が反映されているかどうか。こういう政策を入れたほうがいいのかということや、例えば防災であればこういう観点があるのではないか、というご意見もあった。出てきたご意見をグループごとに発表してほしい。

【委員】

基本政策には入っていないが、大きな枠組みとして、播磨町はそもそもコンパクトシティではないかという話をした。町内は大体自転車で移動ができる。特に播磨町駅前、役場や図書館、商工会、広い駐車場、小学校もあり、一通りの施設が集合している。キーワードとして出てきていないが、コンパクトシティとしての播磨町というのは、これから播磨町の売りにできるのではないかという気がした。

【委員】

一番多く出たのが、安全安心のまちづくりということで、播磨町としては全体の地区防災計画があると思うが、各コミセン区、各自治会にはおそらく地区防災計画というのはまだ無いと思う。町全体が対象となるということで、ほとんどの人は分厚い冊子を見ることがなかなか無いと思うが、やはり必要になってくると思う。特に今、防災と福祉が協働で進めていくという方針になったということもあり、やはり安心して安全に暮らすということはさらに必要になっているという話が出た。

【委員】

関連して、計画はあるが、それを実際に動かすところまでっていない。自主防災組織や避難所、立派な報告書もあるが、それを運用する人、キーパーソンが足りないと思う。

【委員】

関連で、グループで話を聞いていると、私たちの先輩であるシニア世代の方々は、かなり深いところまで考えてくれている。一方で、我々現役世代が、会社へ行って帰ってくる毎日の中で、町の広報を見て、そういう計画があるということも、ふっと過ごしてしまっているのが現状だと思う。現役世代がいかに理解できるか、理解させるような仕組みが必要だと思った。

【委員】

転入者が多い中で、もしかしたら転入者が地域コミュニティに入っていくにくい状況があるのではないかと。そういう人たちもつながれる町になると、より力強い町になるのではないかとという話をした。私も現在子育てをしているが、播磨町では大変子育てがしやすく、安全安心に暮らせているので、今後もこういったことを継続していきたい。

【委員】

これからも播磨町で続いてほしいこととして、がん検診を挙げた。播磨町はがん検診を受ける人が少ないが、2人に1人という割合でがんになっている時代である。できるだけ早期発見、早期治療で治ることも多いので、がん検診はずっと続けてほしいと思う。また、毎年行われている各団体との行政懇談会も続けてほしい。

これからの播磨町で取り組んでほしいことは、大中遺跡まつり。今までと手法を変えて、近隣市町だけでなく離れた市町からも来てもらえるような大きなイベントにできないか、いろいろな団体の方で考えてほしいと思う。次に、コミュニティバスはやはり走らせてほしい。高齢になると車の運転ができなくなり、買い物にも行くことができない方はたくさんいるので、何か方策を考えてほしい。他に、遊べる海をつくってほしい、高齢者の学びの場所をつくってほしい、ため池や古民家、新幹線の高架下の利活用、手続きが簡単で加入しやすい団体保険、人工島企業への就職斡旋など。

また、播磨町は医療機関が充実しているが、産婦人科がない。近隣市町の病院を気軽に利用できるような仕組みがほしい。ひとり暮らしの高齢男性を地域でどのように見守っていくかを考えていきたい。民生委員の仕事かもしれないが、また別の角度でいろいろな方が見守ってあげられるといいと思う。

【委員】

今、私も含めてみんなで話したところ、基本政策に大きく間違いはなく、全部入っているのではないかと話があったぐらい、きちんとできていると思う。14 ページのところをご覧いただくと、一番後ろに書いてあるまちづくり分野という細目が出ているが、今日出た意見は、ここに反映されるのではないかと気がした。地区防災計画の話であったり、ひとり暮らしの高齢者の見守りをどうするかという話であったり、コンパクトシティをどうするかという話など、附箋に書いてもらったことは、おそらく事務局でうまく使っていただけたと思う。私たちが住民として、今思っていることをきちんと出せたというところでご理解いただきたい。

【会長】

わずか1時間弱であったが、行政の皆さんが考えるよりもたくさん意見が出たのではないかと思います。1人の専門家よりも100人の素人の方が良いものを生み出すことがある、と言われるように、

今日私も拝見していて、皆さんの所属されている団体というよりも、住まれている地域の特徴が出てきたように思った。そういう意味では、面積的に小さな播磨町であるが、それぞれの特性があると感じたところである。

先ほど少しまとめていただいたように、基本構想に書かれている将来像やめざすべきところについては、ある程度ご意見は言っていたが、これを進めていくための方策が必要である。皆さんの考え方は、安心して安全に暮らせるふるさとをつくるためには何が必要だろうか、という考え方である。おそらく個別の分野になっていくわけであるが、例えばこの町の特徴であるコンパクトということをもう少し考えたほうがよいのではないかという意見が強く出ていたのではないか。兵庫県下、あるいは全国を見てもこれだけ小さい町、しかもほぼ真っ平な町で何ができるのかという考えを持たないといけないのではないか。その上で、誰もが安心して安全に暮らせるとか、身近な自然環境などの実現に向けていくのではないか。

それからもう一つ、「制度にしばられない」という考え方について。一人暮らしの高齢者宅に民生委員は入れるが、近所に住んでいるというだけでは高齢者以外のお宅になかなか入れないという話が出た。確かに民生委員はそういう制度に基づくが、もっと昔のように、もう少し近所の方が声をかけようとか、独居の高齢男性の方にお料理を教えてあげようとか、何かそういうようなことがあってもいいのかなと思う。行政の方は制度の中で動くので言いにくいですが、今日の皆さんのご意見を聞いていると、制度だけではない、いわゆるボランティアといわれる部分をもう少し使えないかと思った。先ほど、気軽な保険という話もあったが、それも多分、保険制度というがっちりしたものだとなかなか大変だが、もう少し簡単に保険に入れたらもっとおもしろいことができるのに、というところにつながるのではないか。

3点目は、皆さん交通のことに触れていたもので、これは意外だと私は思った。これだけコンパクトな町で、しかも平坦なので自転車で移動ができる。でも、聞いていると、町外の病院に行く方も多く、町内だけではない、交通なども含めた広域ネットワークをどう考えるのかという点が、意外と播磨町にとって重要だと感じた。小さい町がゆえに全部整っているわけではない。近隣市の施設をお借りするという話もあったが、そういうふうに広域的な視点でのネットワークを考えなければいけない。安心安全に暮らせること、というような視点を示していただいたかと思う。

これらを考えたうえで整理させていただこうと思うが、一つだけ、やはりITとかICTの発展は、どこかにいれておかなければいけないと思う。先ほどスマートフォンで保険に入れないのかという話があったが、まさにそうである。「気軽に」ということは省略化ということでもある。そういうICTの発展を踏まえておかないと、10年後は相当変わるのではないかと思う。特に5Gが入ると生活が大きく変わる。技術が経済や社会を変えていくということである。元々は、経済や社会が変わって技術が変わるというふうに言われていたが、そうではなく、技術が経済や社会を変えていくという考え方になった。まさに今、そういったICTの時代、考え方になっているのではないかと思う。その辺をしっかり踏まえて考えていただくと、よりよい10年後をめざした計画になると思う。

今日いただいたご意見をもとに、よりよい計画の策定に向けて事務局での取りまとめをお願いしたいと思う。

4. 閉会

【事務局】

今日はグループワークという形で、いつもと違った雰囲気の中で様々なご意見をお聞きすることができた。今後、具体的な基本計画を策定していくが、本日いただいたご意見もその中で盛り込みながら策定していきたいと思う。

来年度の審議会は、7月、9月、11月の3回程度を予定している。

【町長】

本日は、大変熱心なご審議をいただきありがとうございました。先ほども幾つかのワードが出たが、コンパクトシティについては、当初の基本構想案の中では記載していたが、あえて外した。大きなまちづくりをめざしている中で、コンパクトという文言を使うことはやめようと、内部でそのような話をしたが、また考えさせていただきたい。

先ほど皆様からいろいろとご発表いただいた中に、私たちも常々チャレンジしてきた、日ごろ実現に向けて職員が精一杯頑張っている項目も多くある。コミュニティバスも、町としては住民の皆様の願いを是非実現したいと何年も挑戦はしているが、なかなか社会情勢が厳しい中で、またそれにかかわっていただく人員、またその相手先のこともあり、実現に至っていない。しかし、来年度は移動手段としてまた違う形で、福祉という観点から予算に反映し、新しい事業として進めていこうとしている。

また、高齢者の話があったが、既に65歳以上の方が9,000人以上いらっしゃる。高齢者に対してどういうケアをしていくかも大変大事だと思う。やはり、行政が手を差し伸べないといけない方々も多い中で、「緊急通報システム（安心ボタン）」という事業を行っていたが、なかなか協力者を得ることも難しい時代であり、違う形で継続してサポートしていきたいと思っている。

行政サービスがかなり拡大、充実していく中で、なかなか行政だけでは完結しない部分もあり、皆様のご協力が必要になってくる。障害者施策についても10年程前と比べて5倍以上の予算を措置する中で行っているが、高齢化も含め、どんどん増え続ける対象者に対応していくために、行政だけでは十分に完結できない部分については、協働のまちづくりが求められると思っている。住民の方々や地域のお力もいただきながら、協働という形で進めないと、皆様が望むような施策を推進することが難しい時代だということから、第5次総合計画の将来像を「いいとこいっぱい！笑顔いっぱい！ みんなでつくる ふるさとほりま」としている。

本日皆様からいただいたご意見を無にしないように、第5次播磨町総合計画の中で反映をさせていきたいと思うので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(終了)